

[平成21年度設置]

届出

計画の区分：専攻の設置

注1

フェリス女学院大学大学院音楽研究科演奏専攻

注2

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 フェリス女学院
平成21年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

目 次

	ページ
1 調査対象大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	4
3 施設・設備の整備状況, 経費	7
4 既設大学等の状況	8
5 教員組織の状況	9
6 その他全般的事項	14
添付資料：フェリス女学院大学FD委員会内規	17

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 フェリス女学院

(2) 大学名

フェリス女学院大学大学院

(3) 大学の位置

〒231-8651
神奈川県横浜市中区山手町52番地

(〒245-8650)
(神奈川県横浜市泉区緑園4丁目5番地3)

(4) 管理運営組織

職 名	届 出 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(オシオ タカシ) 小 塩 節 (平成16年6月1日)		
学 長	(ミヤサカ サトル) 宮 坂 覺 (平成20年4月1日)		
研 究 科 長	(クボ ヒロシ) 久 保 浩 (平成18年4月1日)	(クラタ マサユキ) 蔵 田 雅 之 (平成21年4月1日)	変更理由：任期満了による改選 変更年月日：平成21年4月1日
専 攻 主 任	(ナクラ ヨシコ) 名 倉 淑 子 (平成21年4月1日)		

- (注) 1. 『(3) 大学の位置』は、届出学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
2. 『(4) 管理運営組織』の「変更状況」欄は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」欄に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成21年度に報告する内容 → (21)

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 2 様式は, 平成19年度開設の博士後期課程の場合(平成21年度までの3年間)ですが, 開設年度に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)
 3 定員を変更した場合は, 備考欄に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
音楽研究科 演奏専攻(修士課程) 修士(音楽)	2 年	15 人	30 人	基礎となる学部等 音楽学部演奏学科

(注) 「備考」欄に基礎となる学部等の名称を記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

報告年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均入学定員超過率	備 考
区分					
A 入学定員	()	()	15 (-)	1.33 倍	
志願者数	()	()	22 (2)		
受験者数	()	()	21 (1)		
合格者数	()	()	21 (1)		
B 入学者数	()	()	20 (1)		
入学定員超過率 B/A	()	()	1.33		

(注) 1 ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 「平均入学定員超過率」欄には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備 考
学年				
1年次	[]	[]	20[1]	
2年次	[]	[]	[]	
3年次	[]	[]	[]	
計	[]	[]	20[1]	

(注) 1 []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する退学者数の割合 (a/b)
平成19年度	計 []	(累積)計 []	[] %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	%
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 []	(累積)計 []	[] %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	%
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 0[-]	(累積)計 20[1]	[] %
	うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	0 %
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 20人	
(主な退学理由)			
平成22年度	計 []	(累積)計 []	[] %
	うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人	%
	うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	%
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
(主な退学理由)			

(注)1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数の割合」欄は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な退学理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

- ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<音楽研究科 演奏専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修Ⅰ	声楽演奏研究 1 A	1・2前		2		1						隔年開講
	声楽演奏研究 1 B	1・2後		2		1						隔年開講
	声楽演奏研究 2 A	1・2前		2		1						隔年開講
	声楽演奏研究 2 B	1・2後		2		1						平松英子教授辞任のため。後任を平成22年採用予定。 隔年開講
	声楽演奏研究 3 A	1・2前		2								平松英子教授辞任のため。後任を平成22年採用予定。 兼1 隔年開講
	声楽演奏研究 3 B	1・2後		2								兼1 隔年開講
	器楽演奏研究 1 A	1・2前		2		1	1					隔年開講 黒川浩准教授、教授に昇任のため。
	器楽演奏研究 1 B	1・2後		2		1	1					隔年開講 黒川浩准教授、教授に昇任のため。
	器楽演奏研究 2 A	1・2前		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 2 B	1・2後		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 3 A	1・2前		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 3 B	1・2後		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 4 A	1・2前		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 4 B	1・2後		2		1						隔年開講
	器楽演奏研究 5 A	1・2前		2		1						隔年開講 西沢幸彦教授死去のため。後任を平成22年採用予定。
	器楽演奏研究 5 B	1・2後		2		1						隔年開講 西沢幸彦教授死去のため。後任を平成22年採用予定。
	器楽演奏研究 6 A	1・2前		2			1					隔年開講
	器楽演奏研究 6 B	1・2後		2			1					隔年開講
器楽演奏研究 7 A	1・2前		2		1						隔年開講	
器楽演奏研究 7 B	1・2後		2		1						隔年開講	
声楽作品演習 1 A	1・2前		2		1						隔年開講	
声楽作品演習 1 B	1・2後		2		1						隔年開講	
声楽作品演習 2 A	1・2前		2		1						隔年開講 平松英子教授辞任のため。後任を平成22年採用予定。	
声楽作品演習 2 B	1・2後		2		1						隔年開講 平松英子教授辞任のため。後任を平成22年採用予定。	
声楽作品演習 3 A	1・2前		2								兼1 隔年開講	
声楽作品演習 3 B	1・2後		2								兼1 隔年開講	

選択必修Ⅱ	器楽作品演習 1 A	1・2前		2		1	4			隔年開講 黒川浩准教授、教授に昇任のため。
	器楽作品演習 1 B	1・2後		2		1	4			隔年開講 黒川浩准教授、教授に昇任のため。
	器楽作品演習 2 A	1・2前		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 2 B	1・2後		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 3 A	1・2前		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 3 B	1・2後		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 4 A	1・2前		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 4 B	1・2後		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 5 A	1・2前		2		4				隔年開講 西沢幸彦教授死去のため。後任を平成22年採用予定。
	器楽作品演習 5 B	1・2後		2		4				隔年開講 西沢幸彦教授死去のため。後任を平成22年採用予定。
	器楽作品演習 6 A	1・2前		2			1			隔年開講
	器楽作品演習 6 B	1・2後		2			1			隔年開講
	器楽作品演習 7 A	1・2前		2		1				隔年開講
	器楽作品演習 7 B	1・2後		2		1				隔年開講
選択	演奏様式研究理論と実践 A	1・2前		2						兼1
	演奏様式研究理論と実践 B	1・2後		2						兼1
	教会音楽指導者育成ワークショップ A	1・2前		2						兼1
	教会音楽指導者育成ワークショップ B	1・2後		2						兼1
	音楽家のための事業創造論 A	1・2前		2						兼1
	音楽家のための事業創造論 B	1・2後		2						兼1
	アーティストのための身体論 A	1・2前		2						兼1
	アーティストのための身体論 B	1・2後		2						兼1
選択PA科目	実技レッスン A	1・2前		3		7 8	2 1	1		平松英子教授辞任のため。 西沢幸彦教授死去のため。 黒川浩准教授、教授に昇任のため。 土屋広次郎講師、准教授に昇任のため。 橘高昌男講師、新規担当のため。 兼37 兼42 指導態勢充実のため。 (4科目共通)
	実技レッスン B	1・2後		3		7 8	2 1	1		
	特別実技レッスン A	1・2前		1		7 8	2 1	1		
	特別実技レッスン B	1・2後		1		7 8	2 1	1		
選択必修Ⅲ	修士研究指導	1・2前	4			6 7	4			平松英子教授辞任のため。 西沢幸彦教授死去のため。 黒川浩准教授、教授に昇任のため。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	53	0	53	0	53	0	53	
				[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	器楽演奏研究 5 A	2	1・2前		選択	西沢幸彦教授死去のため。履修者なしのため代替措置無し。
2	器楽演奏研究 5 B	2	1・2後		選択	

(4) 廃止科目
なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

管楽器専攻者が在籍していないため、「器楽演奏研究 5 A」「器楽演奏研究 5 B」の未開講についての支障は起きていない。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.03}$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は, 設置届出書の様式第 2 号 (その 2) に準じて作成してください。
- 2 「(2) 授業科目数」は, 未開講である場合や, 配当年次に関わらず, 教育課程上の授業科目数を記入する (資格に関する課程など, 別課程としている授業科目については算入する必要はありません。) とともに, [] 内に届出時の計画からの増減を記入してください。 (記入例: 1 科目減の場合: Δ 1)
- 3 「(3) 未開講科目」は, 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 4 「(4) 廃止科目」は, 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止 (教育課程から削除) した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 5 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」」欄には, 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- 6 「(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は, 小数点以下第 3 位を切り捨て, 小数点第 2 位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	49,626.00㎡	0㎡	0㎡	49,626.00㎡				
	運動場用地	31,438.89㎡	0㎡	0㎡	31,438.89㎡				
	小 計	81,064.89㎡	0㎡	0㎡	81,064.89㎡				
	そ の 他	225.00㎡	0㎡	0㎡	225.00㎡				
	合 計	81,289.89㎡	0㎡	0㎡	81,289.89㎡				
(2) 校 舎		専 用 (36,588.77㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の 学校等の専用 (0㎡)	計 (36,588.77㎡)	大学全体			
(3) 教 室 等		講 義 室 室	演 習 室 室	実験実習室 室	情報処理学習施設 室 (補助職員 人)	語学学習施設 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
					室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	〇〇学部	[] ([])	[] ([])	[] ([])	()	()	()		
	計	[] ([])	[] ([])	[] ([])	()	()	()		
(6) 図 書 館		面 積 ㎡	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
(7) 体 育 館		面 積 ㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員1人当りの研究費等… 研究旅費も含む。 共同研究費は大学全体の金額。
		教員1人当り研究費等	511千円	511千円	図書購入費	5,672千円	千円	千円	
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	337千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,255千円 1,465千円	第2年次 965千円 965千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円	納付金に預り金は含まない。上段は本学卒業者・下段はその他の者。 第1年次は入学金を含む選択PA科目を1学期に2実技レッスン以上履修した場合、1実技レッスンにつき150,000円(特別実技レッスンは50,000円)が授業料に加算される。	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び国庫補助金を充当する。							

(注) 1 届出時の計画を設置届出書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。

2 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称		フェリス女学院大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部						1.18			
英文学科	4	90	-	360	学士(文学)	1.16	昭和40年度	神奈川県横浜市泉区 緑園4丁目5番地3	
日本文学科	4	90	-	360	学士(文学)	1.18	昭和40年度		
コミュニケーション学科	4	90	-	360	学士(文学)	1.22	平成16年度		
音楽学部						1.14			
音楽芸術学科	4	35	-	140	学士(音楽)	1.18	平成元年度	(1・2年次) 神奈川県横浜市泉区 緑園4丁目5番地3	
演奏学科	4	60	-	240	学士(音楽)	1.12	平成17年度	(3・4年次) 神奈川県横浜市中区 山手町52番地	
器楽学科	4	-	-	-	学士(音楽)	-	平成元年度		音楽学部 器楽学科は平成17年4月1日 より募集停止。
国際交流学部						1.15			国際交流学部 収容定員の変更により入学 定員は次のとおり変更。 (平成18年度～平成20年 度)
国際交流学科	4	194	2年次 4 3年次 6	783	学士(国際交流学)	1.15	平成9年度	神奈川県横浜市泉区 緑園4丁目5番地3	国際交流学科 H18…180人、H19…185人 H20…194人、H21…194人 編入学定員 2年次 H19…10人、H20…4人 H21…4人 3年次 H20…6人、H21…6人

- (注) 1 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。
(大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
- 2 設置届出書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
- 3 「定員超過率」欄には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- 4 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「-」とし、備考欄に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<音楽研究科 演奏専攻>

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	蔵田 雅之	平成21年4月	声楽演奏研究1A 声楽演奏研究1B 声楽作品演習1A 声楽作品演習1B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導						
専	教授	平松 英子	平成21年4月	声楽演奏研究2A 声楽演奏研究2B 声楽作品演習2A 声楽作品演習2B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導	兼任	講師	平松 英子	平成21年4月	声楽演奏研究2A 声楽演奏研究2B 声楽作品演習2A 声楽作品演習2B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年3月 平松教授, 辞任。 平成21年度より専任・兼任 の別・職名及び担当科目 変更
							後任未定			「後任未定」平成22年4月から専任教員採用に向けて公募の予定
専	教授	辻 宥子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
専	教授	久保 浩	平成21年4月	器楽演奏研究3A 器楽演奏研究3B 器楽作品演習3A 器楽作品演習3B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導						
専	教授	堀 由紀子	平成21年4月	器楽演奏研究2A 器楽演奏研究2B 器楽作品演習2A 器楽作品演習2B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導						
専	教授	西沢 幸彦	平成21年4月	器楽演奏研究5A 器楽演奏研究5B 器楽作品演習5A 器楽作品演習5B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導			後任未定			平成20年10月死去のため 「後任未定」平成22年4月 から専任教員採用に向けて 公募の予定。

専	教授	名倉 淑子	平成21年4月	器楽演奏研究4A 器楽演奏研究4B 器楽作品演習4A 器楽作品演習4B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導						
専	教授	宮本 とも子	平成21年4月	器楽演奏研究7A 器楽演奏研究7B 器楽作品演習7A 器楽作品演習7B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導						
専	准教授	落合 敦	平成21年4月	器楽演奏研究6A 器楽演奏研究6B 器楽作品演習6A 器楽作品演習6B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
専	准教授	黒川 浩	平成21年4月	器楽演奏研究1A 器楽演奏研究1B 器楽作品演習1A 器楽作品演習1B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導	専	教授	黒川 浩	平成21年4月	器楽演奏研究1A 器楽演奏研究1B 器楽作品演習1A 器楽作品演習1B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB 修士研究指導	平成21年4月 担当者昇任のため
専	講師	土屋 広次郎	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	専	准教授	土屋 広次郎	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 担当者昇任のため
					専	講師	橋高 昌男	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため
兼任	教授	秋岡 陽	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	教授	岡島 雅興	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	教授	三宅 榛名	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	教授	立神 粧子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	准教授	星野 聡	平成21年4月	声楽演奏研究3A 声楽演奏研究3B 声楽作品演習3A 声楽作品演習3B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	瀬藤 康嗣	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						

兼任	講師	関 定子	平成21年4月	演奏様式研究理論と実践A	兼任	講師	関 定子	平成21年4月	演奏様式研究理論と実践A 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため
兼任	講師	桐山 建志	平成21年4月	演奏様式研究理論と実践B	兼任	講師	桐山 建志	平成21年4月	演奏様式研究理論と実践B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため
兼任	講師	宇内 千晴	平成21年4月	教会指導者育成ワークショップ A 教会指導者育成ワークショップ B	兼任	講師	宇内 千晴	平成21年4月	教会指導者育成ワークショップ A 教会指導者育成ワークショップ B 実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため
兼任	講師	立本 博文	平成21年4月	音楽家のための事業創造論A 音楽家のための事業創造論B	兼任	講師	三宅 秀道	平成21年4月	音楽家のための事業創造論A 音楽家のための事業創造論B	立本博文講師の2009年度出講辞退のため。
兼任	講師	三輪 えり花	平成21年4月	アーティストのための身体論A アーティストのための身体論B						
兼任	講師	太田 朋子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	小栗 純一	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	菅 有実子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	田中 奈美子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	西 由起子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	安藤 友侯	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	磯崎 淳子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	川井 綾子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	北原 葉子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	児玉 恵子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	小林 周子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	小林 秀子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	下田 幸二	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	田口 純子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						
兼任	講師	中野 真帆子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB						

兼任	講師	長谷川 さち子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	林 今日子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	前田 美由紀	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	中村 静香	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	渡部 基一	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	鈴木 康浩	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	井上 雅代	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	藤村 俊介	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	渡部 玄一	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	遠藤 剛史	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	千葉 純子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	武久 源造	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
兼任	講師	三浦 はつみ	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB							
					兼任	講師	田村 安佐子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため	
					兼任	講師	千葉 純子	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため	
					兼任	講師	細川 順三	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため	
					兼任	講師	牧野 真由美	平成21年4月	実技レッスンA 実技レッスンB 特別実技レッスンA 特別実技レッスンB	平成21年4月 指導態勢充実のため	

(2) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
8	2	1	0	11	0	7	2	1	0	10	0	
(7)	(2)	(1)	(0)	(10)	(0)	[Δ1]	[]	[]	[]	[]	[]	

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	西沢 幸彦	死亡退職
2	教授	平松 英子	他大学への転出(割愛)

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

大学院修士研究指導教員の他大学への移籍による辞任及び死亡退職のため、修士研究指導担当者が2名欠員の状況である。

前者は、当該教授の移籍が平成20年12月に移籍大学より告知され、後任の補充が間に合わなかったことによるもので、後者と共にやむをえない事情である。いずれも平成22年度4月就任予定の後任を公募の予定である。

本学研究科演奏専攻に管楽器専攻者は在籍していない。声楽専攻学生へは教員の状況及び履修上の対処についてオリエンテーション時に周知しており、混乱は生じていない。

- (注) 1 「(1) 担当教員表」は、設置届出書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。
なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- 2 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - 3 辞任者は「備考」欄に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - 4 年齢は、就任年度に関わりなく、「届出時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - 5 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。
 - 6 「(2) 教員数」の「届出時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、平成21年5月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。
(記入例：1名減の場合：△1)
 - 7 「(3) 専任教員辞任等の理由」欄には、届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 - 8 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 その他全般的事項

<音楽研究科 演奏専攻>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	なし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

平成19年2月に大学FD委員会内規が制定され、大学FD委員会のもとに、各学部・研究科のFD活動を推進するために、各学部・研究科FD委員会を設置している。（添付資料：フェリス女学院大学FD委員会内規）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

大学FD委員会を年3回程度開催している。委員会構成員はほぼ全員参加している。

c 委員会の審議事項等

- ・FD講演会の実施内容について
- ・外部団体主催FD研修会参加について
- ・授業アンケートの実施について
- ・大学FD委員会内規の改正について
- ・各学部・研究科FD委員会内規の制定について
- ・授業アンケート集計・分析について

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・FD講演会の実施
- ・FDワークショップの実施
- ・授業アンケートの実施

b 実施方法

外部講師によるFD講演会を実施、教員のFDに関する啓蒙を行った。
授業アンケートは、学部開講科目を対象として毎学期実施している。授業終了の約3週間前に各教員にアンケート用紙を配布し、取りまとめの学生が配布・回収を行い、指定の提出場所に提出することとしている。結果については、集計処理を行い、次学期の開始時頃に各教員にフィードバックされ、授業改善の資料として活用されている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

FD講演会については、毎回60名程度の教職員が参加している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業アンケートは、集計処理を行い、結果は授業改善のための資料として各教員にフィードバックされる。
学部長・委員長（全学共通科目関係）にも、それぞれが所管している科目の集計結果を渡し、学部・委員会レベルのFD活動に反映させている。大学FD委員会では、大学全体及び科目群ごとの集計結果を資料として共有し、全体的な傾向を視野に入れつつ、具体的なFD活動の展開に関する検討を行っている。
また、FD講演会やワークショップ等により明らかになった課題については、各学部FD委員会を中心に改善への取り組みが行われている。
なお、大学全体の集計結果及び大学FD委員会で検討された改善への取組方策については、大学公式ホームページ及び学内広報誌に掲載して公表し、アンケートに回答した学生へのフィードバックも行っている。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

当初の計画どおり、平成21年度に音楽研究科演奏専攻（修士課程）を開設した。□

演奏専攻は、音楽における演奏表現の技術の習得及びその背景としての学術的追求をその中心的な学問領域とし、時代の要請を取り込む柔軟性と社会での音楽活動の土台となるカリキュラム構成を通して、国際的レベルで活動する演奏家、音楽教育者・指導者、室内楽奏者・伴奏者、教会オルガニスト等、高度に専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた職業人を養成することを目的としている。

このような目的を達成するために、①声楽・器楽（鍵盤楽器：ピアノ・オルガン、弦楽器：ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ、管楽器：フルート）を専門とする教員・学生が「演奏」という共通の目的に向かって連携し、研究領域を深めて、一層高度な演奏技術と表現力を習得する、②これまで、声楽・器楽という専攻単位で履修対象者を制限していた授業科目を専攻・分野にとらわれずに開放することで、他ジャンルの専攻者と共演する機会を増やし、多彩なアンサンブルを実践する、③ダブルメジャーなど実技科目を付加履修できるようにし、国際的レベルで活動する演奏家のほか、音楽教育者・指導者、室内楽奏者・伴奏者、教会オルガニスト等を輩出しようとしている。

本専攻の人材養成目標や教育の特徴は大きな支持を得るところとなり、初年度（平成21年度）に20名が本専攻に入学した（入学定員15名）。

本専攻はまだ開設後3か月に満たないが、入学した学生の履修状況をみると、選択必修Ⅰ（演奏研究）、選択必修Ⅱ（作品演習）、選択科目、選択PA科目（実技レッスン）をバランスよく、かつ意欲的に履修しており、本専攻の設置目的をよく理解し、学習・研究に励んでいることが確かめられる。

このような成果は、今後の修士演奏、修士副論文や修了後の進路により端的に表わされることになるが、本専攻としては、特に修士演奏出演・修士副論文提出に向け研究指導教員が中心となって個別的な指導に力を入れるとともに、学位授与に関して計画どおりに審査体制を構築できるよう準備を行うこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成21年3月23日公表

b 公表方法

- ・大学公式ホームページ上に公開
- ・自己点検・評価報告書を刊行予定（本年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成20年度に認証評価機関（財団法人大学基準協会）の評価を受けた。次回は、平成27年度までに行う予定である。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置届出書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成21年 7月 10日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置届出書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www. 未定)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表予定時期 (平成21年 7月 10日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www. 未定)

(注) 1 項目は、1～5の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

2 「(1) 設置計画変更事項等」の記入事項は、原則として、設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

4 「(4) 情報提供に関する事項」の「①」について、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合、公表後の取扱いについて記入してください。

また、「①」又は「②」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「②」について、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secci@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。